

シロアリや湿気の害からマイホームを守ります。

見えないところだからこそ、定期的なチェックをお勧めします。

まずは**床下調査(無料)**でお住まいの健康をチェック!

お客様のご都合に合わせて、サニックスの専門スタッフがお伺いします。
日時の指定ができますので、お気軽にお申し付けください(土曜・祝日の調査も可能です)。

株式会社サニックス お客様相談室(通話料無料) **0120-39-3290** 受付時間 8:30 ~ 17:30(土日祝も承っております)

**産業廃棄物管理の
当たり前を打ち破る!!**

**環境エース
一元くん**

排出事業者向け廃棄物管理システム

ご好評いただき、導入企業様
623社 1700拠点突破!!

多くのお客様に選んでいただいています。

マニフェストや書類の「電子化」、処理状況や廃棄物発生量の「見える化」、「コンプライアンス強化」までを一元化。シンプルで誰でも安全・簡単に管理が可能です。

※2025年9月末時点

お問い合わせは
こちらから

株式会社サニックス資源開発グループ
Tel : 03-5501-7005 Web : <https://s.sanix.jp/>
Mail : info_kankyo@s.sanix.jp

株式会社サニックスホールディングス

〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目1番23号

TEL.092-436-8870

<https://hd.sanix.jp/>

サニックスホールディングス

検索



環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用して印刷しています。

第48期 中間期 株主通信

2025.4.1~2025.9.30

証券コード:4651



次世代へ快適な環境を

SANIX

株式会社サニックスホールディングス

ご挨拶

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

第48期中間期(2025年4月1日から2025年9月30日まで)における業績報告として、ここに「株主通信」をお届けいたします。

サニックスグループは今年、創業50周年という大きな節目を迎えることができました。また、2025年4月1日から持株会社体制へ移行するとともに、社名を「株式会社サニックスホールディングス」に変更し、新たな展開をスタートさせています。これもひとえに、株主の皆様のご支援のおかげであり、心より深く感謝申し上げます。

当社は、「汚いところをきれいにする、不潔なところを清潔にする」という想いから、一般家庭向けの衛生管理業からスタートし、事業者向け衛生管理業、太陽光発電事業、産業廃棄物処理事業や廃プラスチックを燃料とした発電事業など「環境」を主眼とする事業展開をこれまで進めてまいりました。

国連が採択した「持続可能な開発目標(SDGs)」の期限である2030年が近づきつつある今、当社事業と密接に関わる「環境」分野において、気候変動、資源の枯渇などの環境問題は、依然として多くの課題があり、関連事業に携わる企業として使命感を一層強めております。社会課題解決の一翼を担う企業として、企業理念である「次世代へ快適な環境を」のもと、これまで築き上げてきたことをベースとしながらも、今までとは異なる発想、新たな取り組みを積極的に取り入れていくことで、当社グループを大きく変革させ、将来の大きな成長につなげていく所存です。どうぞこれからの方に期待ください。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2025年12月

代表取締役社長

宗政寛

Q 上半期(中間期)の決算概況について教えてください。

当中間期は、対前年同期比で増収・減益となりました。売上高については、苫小牧発電所が稼働から20年を経過したため、4年に1度の法定点検の実施に合わせて、将来の安定稼働に向けたタービンの刷新やボイラーの更新など大規模な設備投資を実施したことにより稼働日数が減少したこと、また、プラスチック事業においては、分社に伴う許認可の再取得のため、複数の工場で搬入等の制限や在庫の調整を実施したことから減収となりました。一方で、廃液処理事業及び新電力事業が堅調に推移したことなどから、グループ全体の売上高は21,502百万円(前年同期比1.1%増)となりました。

利益については、苫小牧発電所の法定点検及び法定点検後にフル稼働できない期間が長期化したことから、修繕コストの増加やプラ燃料在庫の増加分に係る処理費用引当の影響などがあり、グループ全体の損益は、19百万円の営業損失(前年同期は650百万円の営業利益)、407百万円の経常損失(前年同期は499百万円の経常利益)、親会社株主に帰属する中間純損失は613百万円(前年同期は270百万円の親会社株主に帰属する中間純利益)となりました。

Q 通期の見通しについて教えてください。

通期の見通しについては、売上高は46,791百万円(対前期比3.2%増)、営業利益は2,803百万円(対前期比

25.9%増)を見込んでおり、2025年5月15日に公表しました計画から変更をしておりません。

上半期においては、苫小牧発電所において、フル稼働できない期間が長期化したことやプラスチック事業における分社に伴う搬入制限などの影響により、計画未達となりましたが、下半期で十分にカバーできるものと考えております。特に、苫小牧発電所において、10月に予定していた定期点検の期間短縮や安定稼働によるプラ燃料在庫の減少に加えて、冬期にかけて売電単価の上昇を見込んでおり計画を上回る見通しです。また、廃液処理事業及び新電力事業においても堅調に推移する見込みであることから、グループ全体で、増収・増益となる見通しです。

Q 株主還元について教えてください。

当社はこれまで、財務基盤の強化や将来の事業展開に向けた修繕や設備への投資を最優先に取り組んでまいりました。この判断により、誠に遺憾ながら無配とさせていただいておりました。本年度につきましては、通期計画の達成により、財務健全性の指標である自己資本比率が30%を超える見通しとなっております。これを踏まえ、期末配当につきましては1株当たり2円の配当を予定しております。

今後は、中期経営計画に基づき、設備投資や新規事業の創出といった戦略投資を着実に進め、中長期的な企業価値の向上の実現を目指すとともに、安定かつ継続的な配当へとつなげてまいる所存です。株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



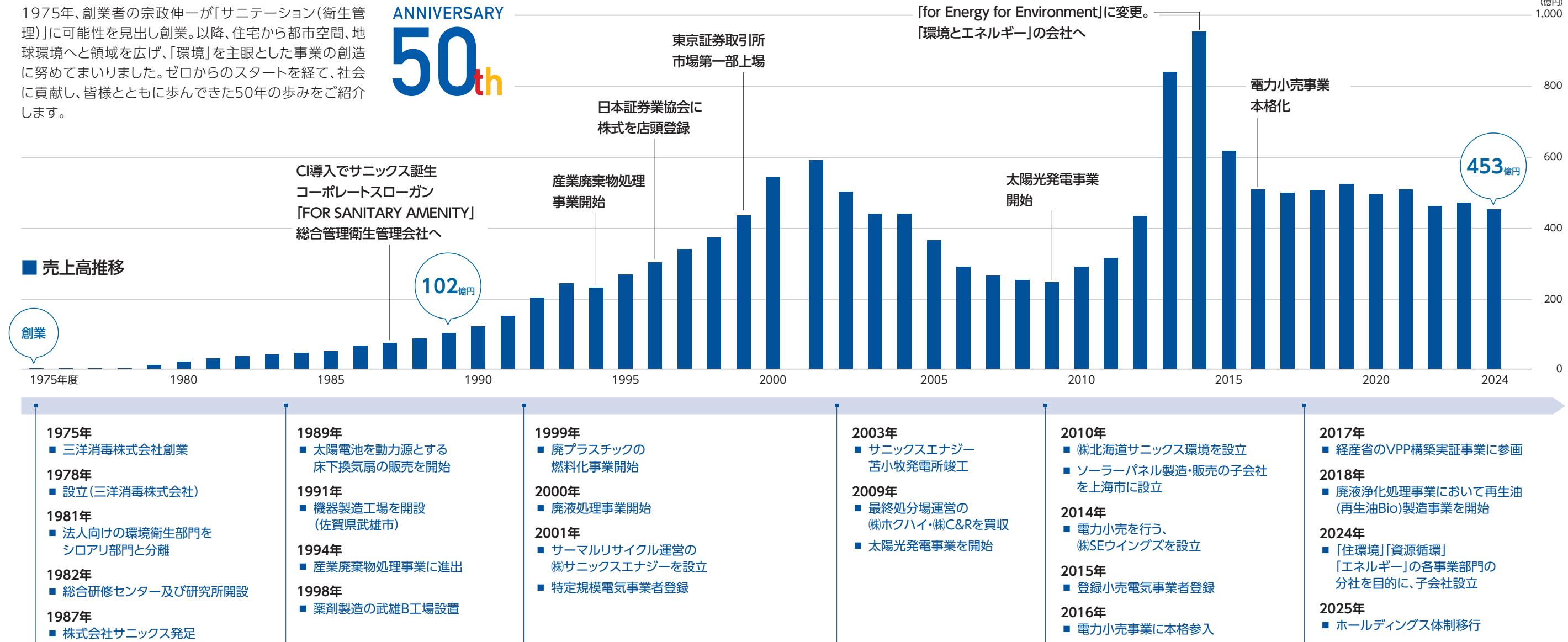
2026年3月期第2四半期決算説明資料はこちらをご覧ください。

<https://hd.sanix.jp/ir/irlib/accounts/archives/category/2026>



サニックスグループ50年の歩み

1975年、創業者の宗政伸一が「サニテーション(衛生管理)」に可能性を見出し創業。以降、住宅から都市空間、地球環境へと領域を広げ、「環境」を主眼とした事業の創造に努めてまいりました。ゼロからのスタートを経て、社会に貢献し、皆様とともに歩んできた50年の歩みをご紹介します。

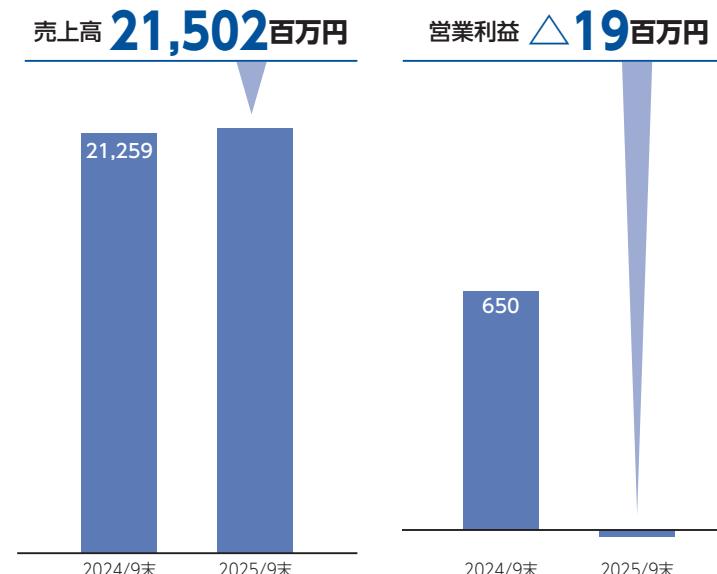
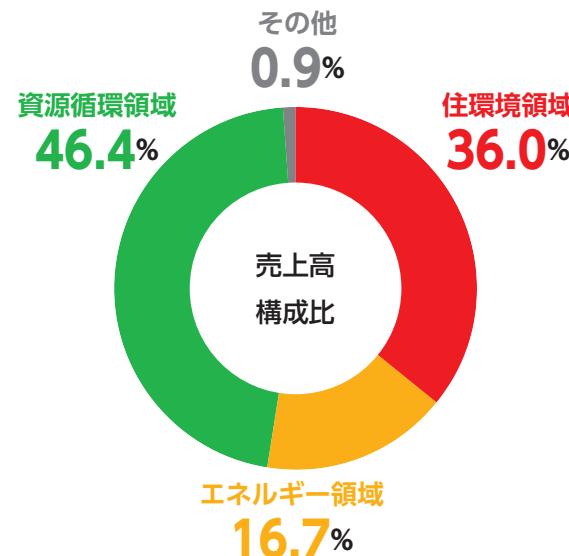


当社50年の歩みをまとめた「創業50周年記念誌」を発行しました。詳細はこちらをご覧ください。

<https://hd.sanix.jp/dbook/50th/?pNo=1&detailFlg=0>

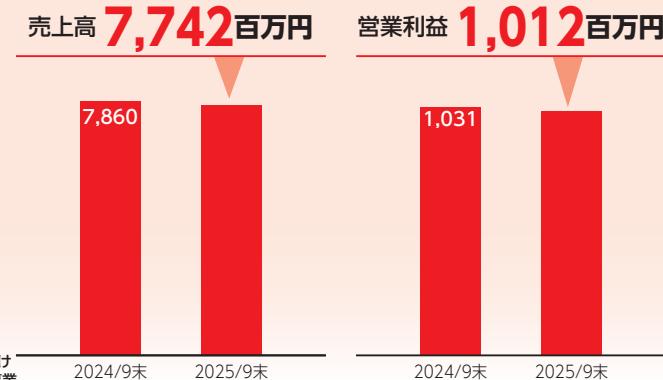
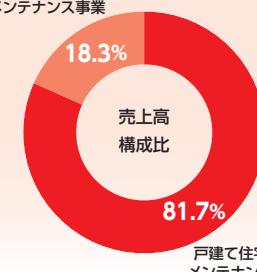


当中間期 営業の概況



住環境領域

快適な住環境を次世代につなぐのが当たる前の社会へ



当中間期の営業概況

住環境領域では、新規顧客の開拓を重視した営業方針を強化し、顧客基盤の拡充に向けた取り組みを推進してまいりました。また、当期より住宅環境に関する多様なニーズへの対応を図るために、HS事業とSE事業を統合し、HSE事業として「戸建て住宅のメンテナンス・リフォーム」へと事業の位置付けを変更しました。しかしながら、夏場における酷暑のなか安全衛生等に配慮した営業体制や稼働率等の見直しをかけたことから、売上高は、7,742百万円(前年同期比1.5%減)となりました。

営業損益は、分社に伴う人員の再配置等により主に人件費が増加したことから、1,012百万円の営業利益(前年同期比1.9%減)となりました。

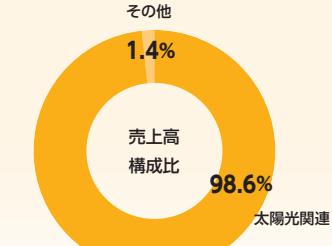
エネルギー領域

環境負荷の低いエネルギーを使うのが当たる前の社会へ



エネルギー領域

環境負荷の低いエネルギーを使うのが当たる前の社会へ



売上高 **3,590**百万円

△103百万円

2024/9末 2025/9末

2024/9末 2025/9末

当中間期の営業概況

エネルギー領域では、企業・法人向けに自家消費型太陽光発電システム等の販売施工、自治体へのPPA事業の提案、土地付太陽光発電所の販売、既設太陽光発電システムの機器交換、メンテナンス等に注力してまいりました。また、採算性を重視した受注管理を徹底し、PPA事業者との提携拡大により、売上高は、3,590百万円(前年同期比1.8%増)となりました。

営業損益は、採算性管理の徹底及び材料コストの見直し等による事業構造の転換を継続して実施したことから利益は改善してきているものの、103百万円の営業損失(前年同期は149百万円の営業損失)となりました。

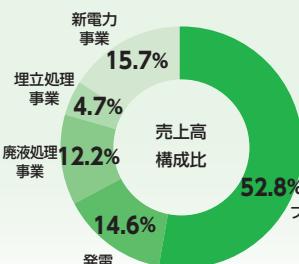
資源循環領域

捨てないのが当たる前の社会へ



資源循環領域

捨てないのが当たる前の社会へ



売上高 **9,975**百万円

293百万円

2024/9末 2025/9末

2024/9末 2025/9末

当中間期の営業概況

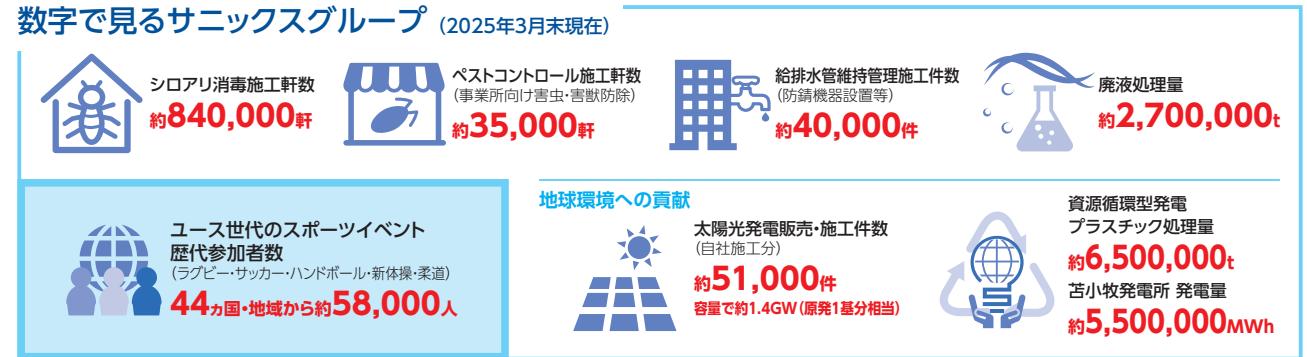
資源循環領域では、売上高は、「埋立処理事業」が前年同期比14.0%減、「プラスチック事業」が分社に伴う一時受入制限等の実施により前年同期比1.5%減となりました。一方で、受入量の増加により「廃液処理事業」が前年同期比11.9%増となったことに加え、「発電事業」及び「新電力事業」において、新たな小売先を開拓したことで電力の総販売量が増加したため増収となりました。この結果、売上高は9,975百万円(前年同期比3.4%増)となりました。

営業損益は、苦小牧発電所における法定点検及び点検後にフル稼働できない期間が長期化したことにより修繕コストが増加しました。また、稼働停止に伴うプラ燃料在庫の増加分に係る処理費用引当を計上した影響もあり、293百万円の営業利益(前年同期比74.9%減)となりました。

サニックスのCSR

当社グループは、事業活動によるお客様への価値提供を通じて社会課題の解決を図ることを価値創造モデルとしており、このビジネスモデルによって、「次世代へ快適な環境を」という企業理念を実現してまいります。

数字で見るサニックスグループ (2025年3月末現在)



スポーツ・文化を通じて、青少年の健全育成と国際交流に貢献

サニックス ワールドラグビーユース交流大会 2000年から、毎年4月下旬～5月上旬に開催 女子(7人制)は2013年から
主催:(公財)日本ラグビーフットボール協会、(一財)サニックススポーツ振興財団、(株)グローバルアリーナ
世界中からトップレベルのユースチームが集結し、その技術と才能を競い合う貴重な国際大会です。ユース年代選手の育成、国際交流を図ることを目的に開催しています。

■歴代参加国・地域 オーストラリア、カナダ、中華台北、イングランド、フィジー、フランス、アイルランド、イタリア、韓国、ナミビア、ニュージーランド、ロシア、サモア、スコットランド、南アフリカ、タイ、トンガ、アメリカ、ウルグアイ、ウェールズ、日本 (2024年までの累計参加者:14,488人)



サニックス杯 国際ユースサッカー大会

2003年から、毎年3月下旬に開催
主催:(一社)九州サッカー協会、(一財)サニックススポーツ振興財団
サニックスワールドラグビーユース交流大会と並ぶ大会として、ユース年代選手の育成、国際交流を図ることを目的に開催しています。

■歴代参加国・地域 オーストラリア、ブルガリア、中国、中華台北、イングランド、フランス、インド、イタリア、韓国、マレーシア、オランダ、ニュージーランド、ロシア、タイ、アメリカ、ウズベキスタン、ベトナム、日本 (2024年までの累計参加者:8,785人)
※女子の国内大会も2014年より実施 (同累計参加者:2,550人)



サニックスカップ U-17国際ハンドボール交流大会

2008年から、毎年10月下旬に開催
主催:九州ハンドボール協会、(一財)サニックススポーツ振興財団
ユース世代のハンドボールの普及と発展、競技力の向上、グローバルな視野を持つ青少年の育成を目的に開催しています。

■歴代参加国・地域 カナダ、中華台北、フランス、ドイツ、香港、韓国、オランダ、タイ、日本 (2024年までの累計参加者:4,270人)
女子大会は2013年より開催。



トピックス

グリストラップ汚泥からジェット燃料の原料を製造する実証をスタート

サニックスグループが進める「グリストラップ汚泥からジェット燃料(SAF)の原料製造事業」が、環境省の「令和7年度脱炭素型循環経済システム構築促進事業のうち、プラスチック等資源循環システム構築実証事業(うち、廃棄物等バイオマスを用いた省CO₂型ジェット燃料等原料製造・社会実装化実証事業)」に採択されました。

「再生油Bio」とは

食品工場や飲食店などから排出される不要になった油や、店内に設置されたグリストラップ内に堆積した油から生産される動植物性油脂由来のバイオマス燃料。

「再生油Bio」用途イメージ図



詳細はこちらをご覧ください。

<https://prtetimes.jp/main/html/rd/p/000000133.000025581.html>



【熱分解残留物】

決算ダイジェスト



会社概要／株式状況

会社概要 (2025年9月30日)

商号	株式会社サンニックスホールディングス (英文名 SANIX HOLDINGS INCORPORATED)
本社所在地	福岡市博多区博多駅東2丁目1番23号
設立	1978年9月
資本金	42億538万円
社員数	2,059人(連結)

役員 (2025年11月1日)

代表取締役社長	宗政 寛
取締役常務執行役員	増田 道正
取締役(社外)	塩原 恵一
取締役・監査等委員(常勤)	金子 賢治
取締役・監査等委員(社外)	金子 直幹 馬場 貞仁

(注) 塩原 恵一、金子 直幹、馬場 貞仁は、会社法第2条第15号に定める社外取締役です。

株式の状況

(2025年9月30日)

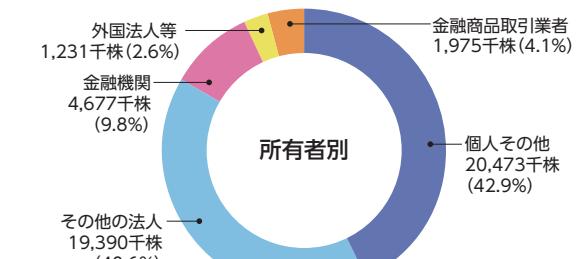
発行可能株式総数	163,500,000株
発行済株式総数	48,919,396株
株主総数	10,324名

大株主

氏名または名称	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社パイン	8,716	18.23
宗政 寛	6,454	13.50
株式会社UH5	3,582	7.49
株式会社UH Partners 2	3,281	6.86
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,101	6.48
一般社団法人サンニックス共済会	1,700	3.55
サンニックス社員持株会	1,269	2.65
株式会社SBI証券	1,082	2.26
株式会社エフティグループ	1,050	2.19
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	788	1.64

※持株比率は自己名義株式(1,115,481株)を控除して計算しております。

株式分布状況



※単元未満株式及び自己名義株式(1,115,481株)を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
定時株主総会議決権の基準日	毎年3月31日
剰余金配当の基準日	毎年3月31日、9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社
同連絡先	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-288-324(通話料無料)
株主総会資料の 電子提供制度(書面交付請求)	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電子提供制度専用ダイヤル TEL 0120-524-324(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所スタンダード市場、 福岡証券取引所
電子公告	公告掲載URL https://hd.sanix.jp/ ただし、電子公告によることができない 事故、その他のやむを得ない事由が生じ たときは、日本経済新聞に公告いたし ます。
公告の方法	

ご注意

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取・買増請求その他の各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(みずほ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、みずほ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(みずほ信託銀行)にお問い合わせください。